

NUSOM summer programに参加して

名古屋大学医学部医学科 5年 武市理央

1. はじめに

私は、2024年7月7日から13日に本学主催で行われたNUSOM summer programに参加しました。本プログラムは、アメリカ(Duke大学、UC Davis、North Carolina chapel hill校)の医学生6人と、中国(北京大学)から来た医学生5人、名古屋大学の医学生7人が参加し、日本の医療について学ぶとともに、各国の医療制度や今後の問題点について議論するというものでした。他国の医療制度だけでなく、医学部の教育の様子や、他国の医学生たちの知識の量、積極性に驚き、毎日が新鮮な一週間でした。一週間の中で様々なことを経験し、また将来の医療を担う立場として貴重な学びを得ることができたとともに、人生の糧となる出会いを得ることができました。

2. 岐阜県のかがやきクリニック

本プログラムの中で特に印象深かったイベントは岐阜県の在宅医療クリニック、「かがやきクリニック」に滞在したことです。かがやきクリニックでは、訪問診療同行に加えて、歯科口腔ケアの講義、嚥下障害の方がいるための食事、30年後の各国の医療の課題と展望についてのディスカッションを行いました。

訪問診療同行では医学生が2人一組のペアになり、実際に訪問診療に同行させていただき、在宅医療の現状を生で見ることができました。普段の名大病院でのポリクリで学ぶ高度急性期の医療とは全く異なり、慢性期から終末期の医療を初めて見学させていただきました。患者さんのご自宅に伺うことで、より患者さんの普段の生活の様子が分かりますし、生活の中でどのように医療や疾患と向き合っているのか明らかになります。患者さんも皆さん快く迎え入れてくださり、同行した中国の医学生の質問にも優しく答えてくださりました。患者さんとお話した中でも特に、「こんな体になっちゃったけど幸せだよ」という言葉がとても印象的でした。自宅でのほとんどをベッドの上で過ごす生活でも、栄養剤の他に少しでも食べられるものを工夫したり、味に飽きないようにいつもの違うものを試したりと、生活の中で、ご自身の病気とうまく共存されている様子を見て、病院で外来、診察をしている際にも、病院をでたその患者さんの普段の様子まで想像できる医師になりたいなと思いました。また、アメリカでも中国でも医師が患者さんの家に足を運ぶということはなく、とても新鮮なようでした。言葉の壁もあり、なかなかスムーズにコミュニケーションが取れないこともありましたが、翻訳のアプリを用いたり、医師の先生方が移動中にたくさん説明をしてくださったりして、海外の医学生にとってもとても学びの多い在宅医療見学だったようです。一緒に同行した中国の医学生は、これはなに？どうして？と次から次へと疑問がわいてくるようで、その通訳をしながらも目の付け所の違いに驚かされることも多くありました。

2日間のかがやきクリニックでの滞在の中で、終末期医療や、在宅ケアの重要性を強く感じ、最期の「30年後の医療」の発表では、どの国の学生も家庭医や在宅医療、訪問診療について触れられていました。在宅医療や訪問診療は日本においてはだんだんと浸透してきていますが、中国やアメリカでは制度として存在せず、とても新鮮だそうです。日本においても、クリニックや総合病院との連携や、家庭医制度の構築などまだまだ課題は残りますが、超少子高齢化の進む日本が、世界のロールモデルとなり一歩リードできる立場になればいいなと思います。

3. 海外の医学生とのつながり

本プログラムに参加して、アメリカと中国の世界でも超トップ大学の医学生とつながることができました。Covid-19パンデミック以降、留学生に対し門戸を閉じる海外の

医学部も多くある中、このプログラムでは海外の医学生とともに学べる貴重な機会でした。特に、日本の医療制度について、日本人にとっては当たり前の3割負担や、高額医療費補助制度なども、他国の医学生からはうらやましいといわれ、日本を客観的に外から見ることができました。また、アメリカや中国の学生は、自分たちの医療制度、保険制度、医療費などについて詳しく知っていることに驚かされました。また、批判的な意見や、今後の課題などをはっきりと持っていて、私も日本の医療についてもっと学びたいなと思いました。

加えて、CCD(Clinical Case Discussion)を行ったときは、特に医学部1年生のアメリカ人学生の知識の量に圧倒されました。学部修士で生物や生理学を学び、卒業したあとにメディカルスクールに進学することや、1年生の頃から臨床の現場や知識に触れることが理由かなと話していましたが、彼らの積極的に学ぼうとする熱意に、私ももっと頑張ろうと思えました。

4. さいごに

一週間という限られた期間ではありましたが、たくさんのことを経験させていただき、学ぶことができました。参加するにあたって、国際連携室の粕谷先生、Itzel先生、長谷川先生、宮川さん、笠井さん、かがやきクリニックの市橋先生、平田さんをはじめとするスタッフの皆さんには大変お世話になりました。また血管外科の坂野先生、新美先生をはじめとする先生方、実習班のメンバーも快く送り出してくださり、ありがとうございました。本プログラムで学んだことを活かして、将来、日本だけでなく、国際的に活躍できる医師になれるよう、これからの実習、勉強にもより一層熱心に取り組みたいと思います。



